

デーリー東北

2025年(令和7年)3月15日(土曜日) (2)

人手不足 生産性でカバー 八戸でプロセスイノベーションラボ



マルコーいずもりの事例を基にプロセスイノベーションの方法を探るアイデアトーク＝14日、八戸市

21あおもり産業総合支援センターは14日、八戸市の八戸工業大番町サテライトキャンパスばらばで、プロセスイノベーションラボを初めて開いた。地元の食品製造会社の課題解決を目指すアイデアトークや事例紹介を行い、地元企業や支援機関などの20人が、生産性を向上して人手不足を乗り越えるヒントを探った。

プロセスイノベーションは、製品やサービスの生産・提供方法を見直し、効率性、品質、コストなどを大幅に改善させること。アイデアトークでは、同市の南部煎餅店「マルコーいずもり」の猶守和幸工場長が登壇。同社は1枚1枚、手作業で丁寧に焼くことをモットーとしているが、手作業の多さや熟練スタッフの技術に依存する生産性の低さが課題だという。

同日は煎餅のみみを集めた商品の選別作業と、こつを必要とする手詰めの包装作業をテーマに、プロセスイノベーションを探った。同大の小玉成人教授らパネリストからは、みみの画像データを人工知能(AI)に学習させて自動選別モデルを実用化する方法や、筒状の機械装置を使って袋詰めを単純作業化する提案があった。

猶守工場長は「この企画がきっかけで改善の糸口が広がった。改革していききたいというワクワクする気持ちが生きている」と可能性を感じたようだった。進行役の同大の関秀廣名誉教授は「産学官の連携が大事。企業が気軽に課題を共有化して産学官で共に考える仕組み作りが大事だ」と強調した。(出川しのぶ)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。